

おはようございます。そして、創立 37 周年おめでとうございます。1974 年 10 月 13 日にジャック・マーシャル牧師によって第一回目の礼拝が行われてから、OIC は長い祝福の道を歩んでまいりました。その道のりは、簡単なものばかりではありませんでした。教会がたいへんな試練を通ったこともあります。しかし、主はいつも私たちとともにいてくださり、今日もともにいてくださっています。アーメン。



OIC は多くの実を实らせてきました。イエスを受け入れる決心をたくさんの方がし、多くの方が受洗しました。また主の恵みにより、国際ろう者支援会のように、新しい教会や働きが OIC の働きから生まれました。主をたたえます。



これらの祝福を感謝します。そして、今後の OIC の働きからさらなる実りを期待します。そのような実りを期待し、喜びを持って、祈りに奉仕に勤しみましょう。教会を建て上げてくださるのは、主ご自身です。しかし、その働きのために私たちの努力も用いてくださるのです。

使徒言行録で、聖霊が教会を建て上げる中心的役割を果たすことを学びました。聖霊の働きを学ぶにつれ、聖霊に対する飢え渇きが私たちのうちに起こされるよう祈ります。ルカ 11:9 で、イエスはこうに言っておられます。「11:9 そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」イエスがこう言われたすぐ後に、求め、探し、たたくことについて話したのは、特に聖霊のことについてであることを、イエスは弟子たちに示されました。ですから、私たちも祈りの中で大胆に、さらなる聖霊の満たしを日々求めましょう。私たちのこれまでの学びでまた話していない聖霊の働きの一面があります。それは、霊の結ぶ実です。ですので、今日は、霊の結ぶ実について見ていきましょう。では、ガラテヤ 5:22-6:10 を読みましょう。

I. 聖書朗読 ガラテヤの信徒への手紙 5:22-6:10 (新共同訳)

5:22 これに対して、霊の結ぶ実とは愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、5:23 柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。 5:24 キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけてしまったのです。 5:25 わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。 5:26 うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりするのはやめましょう。

6:1 兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、“霊”に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。 6:2 互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです。 6:3 実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思ふ人がいるなら、その人は自分自身を欺いています。 6:4 各自で、自分の行いを吟味してみなさい。そうすれば、自分に対してだけは誇れるとしても、他人に対しては誇ることができません。 6:5 めいめいが、自分の重荷を担うべきです。 6:6 御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と持ち物をすべて分かち合いなさい。 6:7 思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分

の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。6:8 自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。6:9 たゆまず善を行いましょ。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。6:10 ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょ。

II. 教え

私はミズーリ州キャメロン近くの農場で育ちました。この写真は、私たちが住んでいた場所の近くです。うちでは牛を飼っていて、野菜もいろいろ育てていました。ですから、私にとって種まきや刈り取りのたとえ話は特に親しみのあるものです。そこではみんな一生懸命に働きましたが、楽しいこともたくさんありました。狩りや釣りに行ったり、池で泳いだりもしました。



一番実入りの多かったのは、近くにあった祖母の農場で育てていたスイートコーンでした。そこで毎年20エーカーをとうもろこし畑にしていました。これは、約2万4千坪余りです。豊作の年には、20エーカーで30万本以上のとうもろこしを収穫することができます。それをすべて手で一本一本収穫するのですから、たいへんな仕事です。こう言うと、うちが裕福だったように聞こえるかもしれませんが、実際はそうでもありません。卸値はとても安いですし、理想的な天候に恵まれる年はそうありませんから、収穫できる量もそれほど多くはないのです。嵐や害虫で作物がほとんどやられてしまうような凶作の年もあります。そんなリスクがあっても、毎年とうもろこしを育てました。



ガラテヤ6:7はこのように語ります。「思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。」豆を植えてとうもろこしができることはもちろんありません。しかし、私たちがわざと雑草を植えたらどうなるでしょう。どんなものができるでしょうか。もちろん、雑草です。畑一面の雑草です。私たちの人生は畑のようなものです。ですから、何を自分の人生に植えつけるかという選択はたいへん重要なのです。



パウロはガラテヤ5:19-21で、人生に雑草を植えることの危険性について厳しい警告を与えています。「5:19 肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、5:21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのもです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。」これは、私たちが心すべき厳しい警告です。雑草をあなたの人生に植えてはいけません。もっと良いものを植えましょ。

ガラテヤ6:8「自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。」パウロは、自分の人生にどのような種を蒔くか正しい選択をするようにと警告を与えて薦めています。けれども、彼の言葉を誤解しないでください。パウロは、行いによる救いを説いているわけではありません。ただ、私たちが生きていく上で、良い選択にも悪い選択にも何らかの結果が伴うことを指摘しているのです。パウロは同じ手紙の中で、救いは信仰を通して恵みによって得られると強調しています。パウロは矛盾したことを言っているわけではありません。

ガラテヤ2:15-16で、パウロはこう言っています。「2:15 わたしたちは生まれながらのユダ

ヤ人であって、異邦人のような罪人ではありません。 2:16 けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義とさせていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。」義認、そして救いは、イエスを信じる信仰によってのみ得られます。パウロは、聖霊の喜ぶ種を植えるように勧めていますが、それは救いを得る方法を教えているのではありません。むしろ、救われた人がどのように生きるべきかを教えているのです。前後の内容を見ればそのことは明らかです。ガラテヤ 5:16 にはこうあります。「5:16 わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」

イエスを信じて聖霊を受けるまで、御霊によって生きることができません。聖霊の導きは、神が私たちの心においてくださるものです。すべきこと、すべきでないこと、という目に見える規則ではありません。しかし、私たちの行い、そして日々聖霊に従うか否かという選択は畑に蒔いた種のようなもので、必ず蒔いた種を刈り取る時がやって来ます。このような言葉を聞いたことがありますか。「思いの種を蒔き、行動を刈り取り、行動の種を蒔いて習慣を刈り取る。習慣の種を蒔き、人格を刈り取り、人格の種を蒔いて、人生を刈り取る。」チャールズ・リードの言葉とも、ラルフ・ワルド・エマーソンの言葉とも言われる名言ですが、実際誰の言葉だったか正確にはわかりません。しかし、この名言には学ぶべきことがあります。私たちが神のことを考えたり、思いを巡らせば、聖霊が私たちが敬虔な行いへと導いてくれます。それが続けば、その行いは敬虔な習慣となります。それによって、敬虔な人格が形成されます。そして、敬虔な人格を持った人になれば、神は私たちが驚くべき方法で用いてくださるでしょう。

ガラテヤ 5:22-23 をもう一度見てみましょう。「5:22 これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、5:23 柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。」霊の結ぶ実は行いではないことにお気づきでしょうか。これらの言葉は、行動を表す単語ではありません。むしろ、どのような人かをあらわす言葉です。言い換えれば、霊の結ぶ実は、人格についてなのです。神について考え、みことばに思いを巡らすなら、聖霊が私たちの内に敬虔な人格を育ててくれるのです。私たちが神の愛について思うとき、隣人を愛することを学ぶでしょう。私たちが主にある喜びを思うとき、自分の人生に喜びを感じ始めるでしょう。私たちがキリストの平安を思うとき、人知を超える平安を体験するでしょう。

聖霊のために種を蒔き、御霊によって生きるなら、敬虔な人格というすばらしい収穫を得るでしょう。しかし、先週お話した聖霊の賜物とはずいぶん違う機能の仕方であることを覚えていただきたいと思います。誰かからプレゼントをもらったなら、それはあなたのものです。賜物はプレゼントと同じで、育てるものではありません。それは与え主からもらうものです。しかし、実は育てるものであり、実が育つには時間がかかります。ですから、一日でできるものではないのです。

パウロが、霊の野菜や霊の穀物ではなく、霊の結ぶ実と言ったことはとても興味深いと思います。どうしてでしょう。はっきりとは言えませんが、時間的なことと関係があったのではないかと思います。穀物や野菜は数週間または数ヶ月でできますが、果物はもっと時間がかかります。



スイートコーン以外に、私のおばあちゃんのところには、りんごの木と桃の木がありました。そんなにたくさんなかったのですが、売り物ではなくおもに自分たちで食べるために作っていました。けれども、もっと果物の木をたくさん植えようかと話し合ったことがあります。母は次のようなことを言ったかと思います。「果樹園を作って、そこで取れた果物を売ったらどうかしら。」それに対して父はこんな答えをしたように思います。「果樹園を作るのにどれだけ時間がかかるかわかっているのか。」

果物を作るには時間がかかります。リンゴ園を種から育てようと思えば、初めての収穫までに10年はかかりますし、成木になるまで20年くらいはかかるでしょう。苗木を買えば、数年は短縮できますが、それでも実ができるまでには何年もかかります。果物を作るのは、短気な人にはできない作業です。父はいい人でしたが、忍耐とか長期計画とかいうのは父の得意分野ではありませんでした。すぐに収穫が見込めない果樹園を耕して種を蒔いてたいへんな世話をするのはいやだったようです。

多くの人が、霊の結ぶ実について同じような問題を抱えています。忍耐を今すぐ与えてください、と望んでしまうのです。しかし、霊の実を結ぶのに近道はありません。あなたの人生に霊の実が結ばれてほしいと願うなら、今から種を蒔き、長年養っていく必要があります。こんなことを言った人がいます。ブロッコリーのような人格でいいなら、数週間で育てられる。けれども樅の木のような人格がいいなら、もっと時間がかかるでしょう。



III. 結び

テモテ第二 2:21にはこうあります。「**2:21** だから、今述べた諸悪から自分を清める人は、貴いことに用いられる器になり、聖なるもの、主人に役立つもの、あらゆる善い業のために備えられたものとなるのです。」私たちが諸悪に背を向け、聖霊のために種を蒔くなら、私たちの人生に義の収穫がもたらされるでしょう。また敬虔な人格を得るでしょう。そうすれば、いろんな方法で効果的に主イエスに仕えることができるようになります。霊の実を結ぶには時間がかかりますが、その報いは十分価値のあるものです。

今日、私たちは OIC の創立 37 周年記念を祝っています。しかし、私たちが天国に召され、主イエスと永遠をともに過ごすときには、もっとすばらしいお祝いが待っています。その日に、私たちがみんな揃ってそこにいられることを祈ります。そして、たくさんの人がこの世で主に仕えた良い報いを得られるようにと祈ります。あなたの人生に良い種を蒔き、霊の結ぶ実を育てましょう。そうすれば、その日に、あなたは栄光の冠をいただくでしょう。最後に**ペトロ第一 5:4**を読んで終わりたいと思います。「**5:4** そうすれば、大牧者がお見えになるとき、あなたがたはしばむことのない栄冠を受けることになります。」祈りましょう。

IV. 祈り

愛する天の父よ、
あなたが私たちの教会にくださった長年の実り多い働きをありがとうございます。イエスが十字架上で成し遂げてくださった御業によって与えられたすばらしいイエスの福音を感謝します。復活と永遠のいのちの約束を感謝します。私たちの人生を導いてくださるあなたの聖霊をありがとうございます。愛に満ちた主よ、ここにいるお一人ひとりがイエスとともに歩む喜びと聖霊によって生きる喜びを知ることができますように。私たちの心と目を開き、イエスを見、福音を理解することが出来るように助けてください。あなたの民の上にあなたの聖霊を注いでください。あなたの御国で仕えるための賜物を与えてください。私たちを導き、誘惑からお守りください。私たちのうちに霊の結ぶ実を育ててください。それはあなたの栄光のためです。この教会を祝福し、教会家族全員を祝福してください。また私たちの家族、友人、隣人を祝福してください。あなたの恵みと癒しをこの地に注いでください。イエスの御名により祈ります。アーメン。